

# 人権作文コンテスト 入賞作品

優秀  
最秀

## 『私の宝物』

明峰小学校6年 金子 芽生さん



「ベイ・バイブビー」  
と弟はいつも私に言うてくれる。弟は21番目の染色体が通常よりも1本多く、3本ある。21トリソミー、いわゆるダウン症です。

みんなはダウン症と聞くと、かわいそうと悪いイメージをもつかもしれません。確かに弟は歩けるようになるのがおそかったし、同級生の子と同じ早さで勉強することは出来ないし、今でもつまくしゃべることができません。

まずは歩けるようになるために、病院でひざを曲げる練習をしたり、すわる練習をしたりしてきました。そのころ私もまだ小さかったので、練習しているビデオを見せてもらいました。何度失敗しても起き上がり、練習している姿を見て、弟がすぐぐんばっているのうれしくなり、自分も負けられないと思いました。

私と同じ小学校に行けるようになり、私はとてもうれしくなって、やっといっしょに行けると思うとわくわく感が止まりませんでした。勉強もみんなよりゆつくりですが、少しずつ出来る事が増えてきました。発音も難しいので「音一生けん命練習しています。最初は、「ベイ・バイブビー」と笑顔で言うてくれても私は全く何が言いたいのかが分かりませんでした。でも今は、少しずつ上手になって、それで「めい大好き」と言うてくれることが分かりました。それに気づいた時私は、弟が何度もぐんばって伝えようと努力してくれていたんだなとも感動したのを覚えています。たくさん勉強すれば、こんなにも上手になれるんだなと感じ、もっといろんなことを弟に教えてあげたいと思いました。

「伝える」ということは、「言う」だけではありません。例えば何が言いたいのかを紙に書いてもらったり、ジェスチャーをしたりすることもできます。弟は学校でひらがなや漢字の練習をしてきたので相手が聞きとれない時は文字で伝えられることが増えてきました。何より弟はジェスチャーが上手でおもしろいことをよく言うので、弟といるだけで、楽しく毎日を過ごしています。

ある時、新聞で出生前診断という検査があることを知りました。その検査でお腹の赤ちゃんに染色体異常が見つかれば、約9割が中絶を選んでいるというのです。除中で手が汚れてベタベタの状態です。掃除が終わるまで待つてほしいと祖母に言うていました。祖母は、「ベッドに移動させるのは10分で済む、早くして」と怒っていて、母は、「10分で終わらないですよ。ベッドに移してからもクッションを置いたり、飲み物やリモコンの設置とか色々かかると時間がかかるから、先にこちを終わらせるから、ちょっと待つて」と、言い争いになっていました。

私はその様子を黙って見ていましたが、祖母の顔がみるみる険しくなっていくのがわかりました。母も荒々しい口調になっていて、険悪な状態でした。2人の言い争いに、父が立ち上がり、「僕が台所を片付けておくからお母さんのこと先にしてあげな」と言い、母は、汚れた手を洗い、プツプツ言いながら祖母のお世話をしていました。祖母もお世話されながら、プツプツ文句を言うていました。

祖母は、私が生まれる前、事故でせき髄損傷というけがを負い、下半身と上半身の一部が不自由になりました。私が知っている祖母は、車いすを利用して、母やおじやヘルパーさんのサポートを受けています。でも、手に装具をつけて、自分でご飯を食べ、お習字や絵手紙を楽しんでいます。旅行に行ったり、外食したり、祖母との思い出はたくさんあります。

祖母は、いつも私の話を笑顔で聞いてくれ、どんな時もほめてくれるし応援してくれます。もし、私が祖母のように事故にあつたらとても悲しいと思うけど、祖母はいろんなことに頑張っています。だから、私は祖母がすごいと思うし大好きです。祖母の家から自分の家に戻る車の中で、母が父に怒りをぶつけていました。「待つてくれてもいいのに」「そう言うていました。父は」「まあなあ」と答えています。

私が母の立場なら、きつと手が油でベトベトだし掃除が終わるまで待つてほしいと思うだろうし、でも祖母の立場なら、すぐにベッドに移してほしいし、どちらの気持ちも分かるし、どっちが正しいのか、むずかしいなと思います。なにより、祖母と母が言い争いやケンカをする姿は見たくないし、2人が嫌な気持ちになるのが、かわいそうに思いました。

それから数日後、私と母の2人きりになった時、母がケンカのことをごう思ったか聞いてきました。私は、「ママもおばあちゃんも悪くないよ。でもむずかしいよね」と正直に答えました。すると母は私に、「美彩があの時、台所のことか、おばあちゃんのことを何か手伝って



今年度も未だコロナ禍が続く状況下でしたが、多くの小・中学生の皆さんから応募いただきました。その中から入賞されました3作品をご紹介します。

もし、私の両親が検査を受け、中絶を選んでいたら、弟が生まれていなかったのかもしれないと考えるととてもショックを受けました。

私にとって弟はとても大切な宝物です。生まれてこなければよかったなんて思ったことは一度もありません。私は弟のすばらしさをみんなに伝えていくことで、まわりの人たちも幸せになっていることを理解してほしいと思っています。

弟の笑顔は私の家族を最高にハッピーにできる笑顔です。



優秀賞

## 『サポート』

清和台中学校1年 中山 美彩さん



今年のお盆に、母の方の祖母の家に行きました。祖父は私が生まれる前に亡くなっていて、祖母とおじさんが住んでいます。おじさんは仕事に行つて、いませんでしたが、ヘルパーさんが祖母のお世話をしていました。ヘルパーさんが帰った後、母が食事の用意をし、祖母と父と母、私たち姉弟の4人の7人で食事をしました。

学校のこと、友達のこと、習い事のこと、たくさん話を話し、祖母はとも楽しんでました。私たちが食事中、母は皆の料理を出したりお皿をさげたり忙しそうにしていました。全員が食べ終わる、食卓からソファに移動した後、母は皿洗いを始めました。そして、台所の食器がこやガスコンロがギトギトで汚れていると言いつ、掃除をし始めました。

父と私たち姉弟は、ソファに座つて、のんびり過ごしていました。しばらくすると祖母が急に「早くして」と大きな声で怒鳴りました。祖母と母がけんかを始めたのです。

祖母は、体が不自由で車いすを利用しています。自分でベッドに行くことはできません。だから早くベッドに移すよう母に頼んでいました。しかし母は、台所の掃くれていたら、ママもおばあちゃんも、うれしかったかもね」と言いました。私ははっとしました。「2人のどちらが正しいか」ということだけ考え、「自分ができることは何か」を全く考えていなかったことに気付いたからです。

障がい者や介護が必要な人のサポートは、1人ですると、とても大変です。けど、皆がそれぞれのできることをすれば、1人で抱え込まなくて済みます。直接的なサポートだけでなく、家事や手伝いすることもサポートになります。今回のことで、それに気づくことができました。

今度、祖母に会つたら「私にも何か頼んでね」と笑顔で言うつもりです。そして、母のことも、助けたいなと思っています。

優秀賞

## 『ぼくと妹』

川西小学校3年 元尾 蓮さん



ぼくには、1年生の妹がいる。いつも仲良く学校に行つたり、遊んだりするけど、毎日、けんかをします。

この前も、いっしょにべん教をしていて、えん筆のとりに合ってしまった。どちが早く終わるかとかでけんかをした。そんな時、お母さんは何も言わずじつとその様子を見ていた。妹はすくにお母さんに言いに行つて、「けっきょくぼくがおられることが多いように思う。おられるのはいつもぼくで妹は少ないと思つて、お母さんは、ぼくと妹どちが好きなのだらうかと考え、じつじつ聞いてみた。お母さんは、とても悲しそうだった。

次の日、お母さんは、「ママどちが好き」という絵本をかりてきて、ぼくと妹に読んでくれた。その話は、ぼくと妹によく聞いていた。お母さんは、じつじつと二人とも大切な人だということ。お母さんともちがう1人の人間としてせいろ長すがた、お母さんの知らない世界をみせてくれてありがとうと言つてくれた。お母さんは、ぼくと妹、どちも大好きだと言つてくれた。

ぼくは、妹ばかりと思つていたけど、お母さんはきつとぼくがおぼえてない赤ちゃんのころから大切にそだててくれていたのだとわかった。妹は、ぼくとせいかくもせいべつもちがつけど、妹にもよいところはあつた。そんな妹をぼくは大切にしたいと思つた。そして、ぼく自身もよいところ、にがてなところはあるけど、自分を大切にしたいと思つた。お母さんは、ぼくと妹のすべてをうけ入れてくれる大切な人だ。これからぼくは、たくさんの人と出会うと思つた。その時に、相手のよいところをみて、おたがいを大切にそだせたいなと思つた。

